



ロールス・ロイス認定

【神戸】神戸工業試験場（兵庫県播磨町、鶴井昌徹社長）は、英ロールス・ロイスの認定を追加取得し、航空機向け材料試験の受託業務の幅を拡大した。コロナ禍で審査員が来日できない中、ウェブ会議システムを使って立ち会い審査を実施し、合格した。国内で可能な試験を拡充し、2025年12月期に航空機向け受託試験事業の売上高を、現状比8割増の約7億円に高める計画だ。

航空機向け材料業務拡大

神戸試験場ウェブで取得



ウェブ会議システムを使用した立ち会い審査を受けた

が特別に許可した。

神戸工業試験場は独立系の受託試験事業者。ロールス・ロイスの認定は、15年に初取得したが、試験片加工や常温引っぱり試験など一部の項目に限られていた。それ以外の試験は海外の

作業員の顔、試験の様子、試験機のパネル画面などを、ウェブ会議システムの画面で同時に表示できるように、市販の映像機器を使って設定。20年秋、ロールス・ロイスの審査員が音声でコミュニケーションを取りながら、神戸工業試験場を立ち会い審査し、6月30日付で合格した。

材料試験場での認定取得のための立ち会い審査を、ウェブ会議システム経由で実現したのは世界的にも珍しいという。信頼性の観点から審査への活用は難しいとされてきたが、リアルタイム性を確保して意図的に映像を改ざんできないことを示し、ロールス・ロイス